

国際ニュース雑誌「ニューズウィーク」が、すぐれた病院の世界ランキングを発表しています。これは医療専門家による推薦と患者満足度、病院機能評価の3項目から世界の病院を評価したものです。

日本版ランキングでは我が東大病院が1位となりました。2位は、昨年トップの聖路加国際病院でした。なお、東大病院は世界版でも16位にランクインしました。

臨床医として働いた36年間のうち、留学と別病院へ出向した時期を除き、30年を東大病院で過ごしてきました。そんな私にとっても、非常にうれしいニュースでした。

私自身も2年半前に、膀胱(ぼつこう)がんの治療のため、

## がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

# 面影ない「昔の東大病院」

虫取りに励んでおられます。その養老先生も今回の入院には満足だったそうです。

養老先生の入院の経緯をもとに、この4月に出版した共著「養老先生、病院へ行く」(エクスナレッジ)には次のようなやりとりがあります。

中川「養老先生は、今回入院した東大病院について、医師や看護師の対応も含めて、

とっていましたから。医師も悪い意味でのエリート意識から抜け切れていなかったような気がします」

そう、養老先生や私が知っている汚くて偉そうな「昔の東大病院」の面影は今や全くなくなっています。

手前味噌かもしれませんが、がんの治療でも、東大病院は優れていると思います。私は別の病院で治療が難しいと言われた患者から相談を受けることも多々あります。当

め、当院に入院しました。生まれて初めての入院生活でしたが、病院食に多少の不満を感じた他は、大いに満足できました。

が、「病院嫌い」で有名な、恩師の養老孟司先生が「無痛性心筋梗塞」で私の外来を受診し、即入院となりました。

26年ぶりの東大病院受診でしたが、今は体調を取り戻して

どうお感じになられましたか」

が、「ずいぶん訓練されたな」と思いました。昔はあんなもんじゃなかったからね」

中川「東大病院は旧態依然

た結果、見事な治療で完治したケースをたくさん見てきました。もちろん、私の専門の放射線治療も負けてはいません。次回、詳しく紹介します。

(東京大学特任教授)

この連載でも紹介しました

が、今は体調を取り戻して

中川「東大病院は旧態依然

(東京大学特任教授)